

構成機関の取組状況（令和5年3月時点）

徳島市

- 徳島市職員訓練
- 福祉避難所開設及び要配慮者輸送訓練



- 避難所及び災害対策連絡所運営訓練



- 「緊急・重要情報ポータルページ」開設
徳島市公式LINEとの連携



連携 ↑ ↓



緊急・重要情報ポータルページ



徳島市公式LINE



市職員の防災力向上を図り、大規模災害に備えるため、「福祉避難所の開設」や「要配慮者の輸送」及び「避難所等の運営」に関する訓練（図上）を実施した。

「緊急災害情報」や「消防・防災・危機管理」に関する重要情報などを一元管理・発信する「緊急重要情報ポータルページ」を開設し、ポータルページに直接アクセスできるよう徳島市公式LINEのリッチメニューとして設定するなど情報発信力の強化を図った。

市総合防災訓練



「市災害対策本部会議」の様子



「災害ボランティアセンター」の様子

罹災証明書発行訓練



罹災証明書発行ブース



二次調査受付ブース

- 9月に南海トラフ巨大地震などの地震災害を想定して、市総合防災訓練を実施した。社会福祉協議会様のご協力のもと、ボランティアセンター開設訓練を実施した。
- 3月に災害後の迅速な被災者支援業務を目的として、罹災証明書発行および生活再建相談窓口を設けて訓練を実施した。

防災情報の発信力の強化

【小松島市公式LINE】

- ・小松島市公式LINEが令和5年3月より運用開始。
小松島市の行政情報やイベント情報、災害時の緊急情報（避難情報や避難所情報など）、さまざまな情報をプッシュ型で発信する。

【小松島市HPの防災リンクページ】

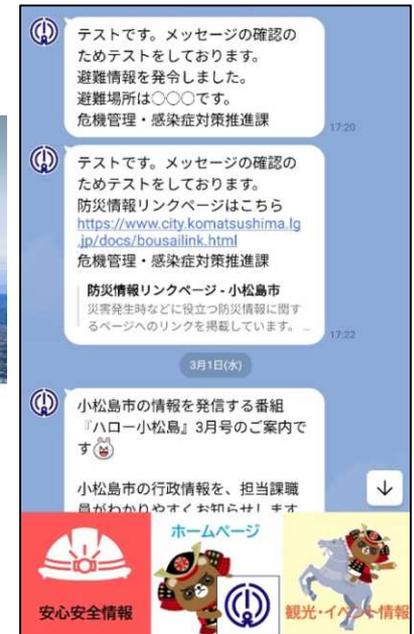
- ・令和4年8月より、災害発生時などに役立つ防災情報に関するページへのリンクを取りまとめて掲載しています。
(河川ライブカメラ、気象情報、避難情報、各種防災機関のページなど)



防災リンクページ

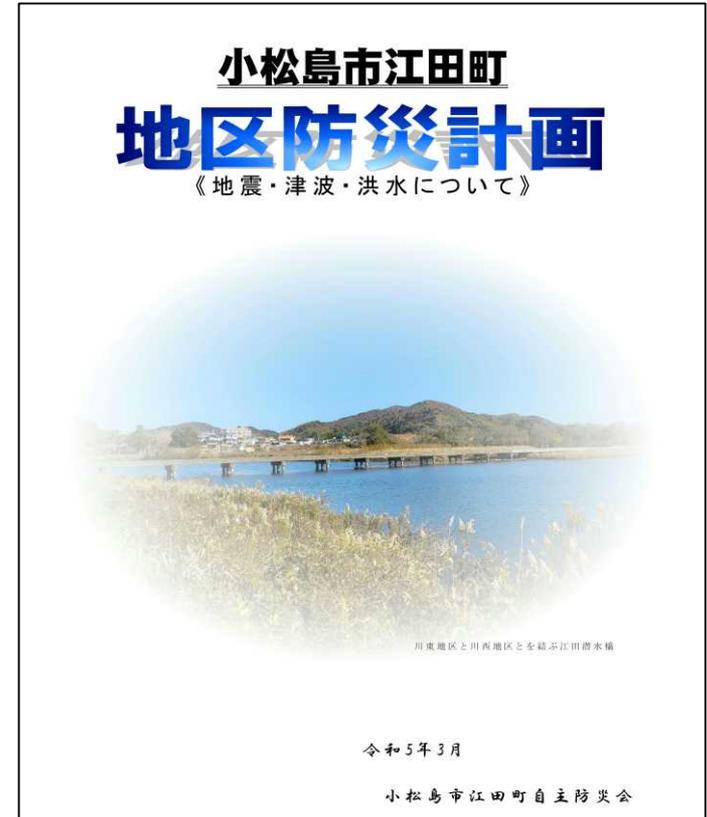


市公式LINE



地区防災計画の作成と市地域防災計画への掲載

- ・ 令和5年3月に小松島市江田町において自主防災会などが中心となり、地区防災計画が作成された。
(市内の地区では作成は初めて)
- ・ 江田町自主防災会では地域の全世帯に今回作成した地区防災計画の配布している。
- ・ 小松島市では、地区防災計画の作成に係る支援(内容に関する助言や情報提供など)を行っている。また、令和4年度の防災会議の審議を経て、市地域防災計画へ今回作成された地区防災計画の掲載を行った。
(令和5年3月時点で、県内自治体では掲載は初めて)

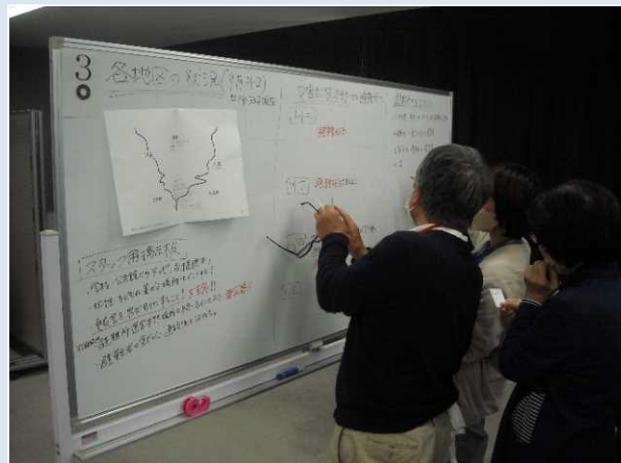


地域防災力の向上とコミュニティの活性化の観点からも、地区防災計画の積極的な作成を促進する。また、地区防災計画の作成において、本市は適宜、助言や情報提供等を行い、地域の取り組みを支援する。

市町村防災力強化出前研修(避難所運営ゲームHUG)の実施

- 日 時:令和4年10月26日 13:30~16:30(3時間)
- 場 所:小松島市役所
- 参加者:市職員,市社会福祉協議会職員,自主防災組織...計48名

風水害を想定した
HUG研修



避難所運営ゲームHUG(訓練風景写真)

市職員及び自主防災組織等の地域住民の防災力の向上を図るため、消防防災科学センターが主催している市町村防災力強化出前研修(避難所運営ゲームHUG)を実施。

市職員と地域住民の混合で8名のグループに分かれ、風水害が発生した場合の避難所運営を図上訓練にて体験した。

大規模災害が発生した場合、被災した多くの方が避難所での生活を強いられるため、地域住民や各種団体、市職員らが協力し合って避難所運営を行う必要があるため、本図上訓練にて実際の避難所運営を行う際に適切な対応がとれるよう体制強化を図った。

◆ 防災フェスタの開催

- ・ 日時：令和5年1月22日（日）
- ・ 場所：道の駅ひなの里かつうら
- ・ 内容：「道の駅ひなの里かつうら」において女性による災害時用トイレの設置、勝浦町防災士会による災害時に役立つロープワーク講習、消防団の指導のもと放水訓練などを実施し町民の防災意識の高揚を図った。



◆ 災害時用備蓄品の整備

- ・ 日時：令和5年1月～2月
- ・ 場所：役場庁舎内、各避難所備蓄倉庫
- ・ 内容：備蓄計画に基づき、各避難所備蓄倉庫に備蓄食等を配分して、災害発生時における非常食の確保及び整備を実施した。



■上勝中学校 1年生を対象に防災教育を実施

- 上勝町ハザードマップで自宅及び周辺の災害リスクを確認する。
- 自宅から避難所までの避難経路の確認
- 備蓄倉庫において、備蓄品の説明
- 避難所及び防災倉庫の確認



■ 新規整備救助用資機材(コンビツール)の取扱い訓練を実施

- 災害対応を担う各消防分団に充電式救助用資機材を整備
- 資機材の説明及び取扱い訓練を実施



令和4(2022)年度の市町村支援について

徳島地方気象台

平時の取組み

- 気象台長と市町村長との「顔の見える関係」を構築
 - 出水期前に県内全24市町村長との懇談を実施
 - 大規模氾濫減災協議会及び流域治水協議会などへも参画し、連携を強化
- 「地域防災計画」、「水防計画」等への助言・見直しを支援
 - 県、市町村の「地域防災計画」、「水防計画」、「防災対応マニュアル」等への見直しを支援
 - 「洪水タイムライン」へ助言・見直しを支援
- 防災気象情報の理解・活用のための研修・訓練・イベント等への協力
 - 各協議会及び勉強会で「新たに行う気象情報について」の解説を実施
 - 徳島県、県民局及び市町村での訓練及び防災イベント参加や講師派遣
 - 徳島県内、全24市町村の防災担当者を対象に、気象防災ワークショップを実施

首長訪問



防災訓練



防災イベント



緊急時の取組み

- 「ホットライン」や「気象台からのコメント」などにより、予報官が想定する危機感を伝達
 - 気象災害のおそれがあるときは、現象の切迫度や危険度に応じて、「気象台長」、「管理官（課長級）」、「専門職員（予報官など）」が各レベルでホットラインを実施
 - 台風第14号が接近する前に、台長からほぼ県内全市町村長へ、ホットラインを実施
 - 台風及び前線等の影響による大雨が予測される場合に、河川事務所が開催する危機感共有会議にて気象解説を実施
 - 台風第14号接近時には、気象台と県庁をP C常時接続で繋ぎ、リアルタイムで危機感を伝達する体制を試行
- 災害対応支援のため「気象防災対応支援チーム（JETT）」を派遣
 - 気象庁全体では令和5年1月16日時点で、22事例、延べ709人の職員をJETTとして派遣

災害後の取組み

- 市町村と「振り返り（聞き取り）」等を実施
 - 台風第11号、14号及び、12月23日～24日の大雪について、県・市町村の防災担当者へメールによるアンケートを実施
- 被災市町村に対して災害時気象支援を実施
 - 被災した市町村に対して、災害時気象支援資料を提供する

■ 流域住民や要配慮者利用施設対象の「避難の実効性向上」のための支援の実施

➤ 「ファミリータイムライン作成研修会」を実施

- ・ 家族が安全に避難するための避難行動計画を時系列で整理
⇒適切な避難のタイミングが明確化（徳島市、鳴門市、小松島市等で開催）

➤ 令和5年度の取組予定

- ・ 「ファミリータイムライン作成研修会」を開催
- ・ 施設の防災担当者を対象とした防災意識を高めるための「要配慮者利用施設のタイムライン作成研修会」を、徳島保健所管内で6月末に開催予定



ファミリータイムライン作成研修会（小松島市R4.11）



アクションシート



ファミリータイムライン資料

■ 河川監視カメラの運用について（令和3年7月～）

▶ 令和4年度の取組

- ・ 東部圏域の二級河川では、1箇所設置し、全部で2河川4箇所（県下全域では、22河川28箇所）に河川監視カメラを設置済
- ・ YouTubeを活用し、高解像度のリアルタイム映像を配信中

▶ 令和5年度の取組予定

- ・ より切迫感の伝わる映像を提供できるよう工夫・検討（量水標の設置等）



Youtube配信映像 (平常時)

勝浦川 (勝浦町沼江)

上流→



Youtube配信映像 (災害時)

勝浦川 (R4.9 台風11号来襲時)

上流→



■ 水害リスク情報空白域の解消に向けた取組について

- 浸水被害からの、逃げ遅れゼロを目指し、令和3年7月に水防法が改正

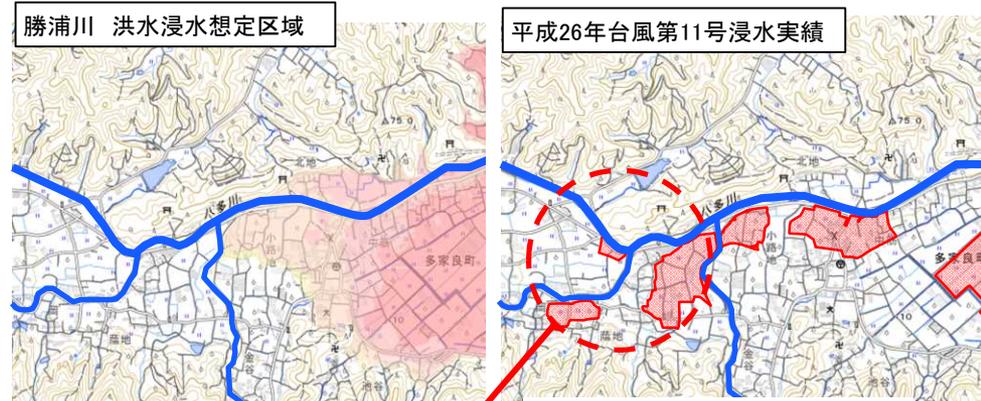


浸水想定区域の指定対象河川が拡大

- 空白域のある488県管理河川を対象に、令和4年度までに、278河川について、浸水想定図の作成に着手

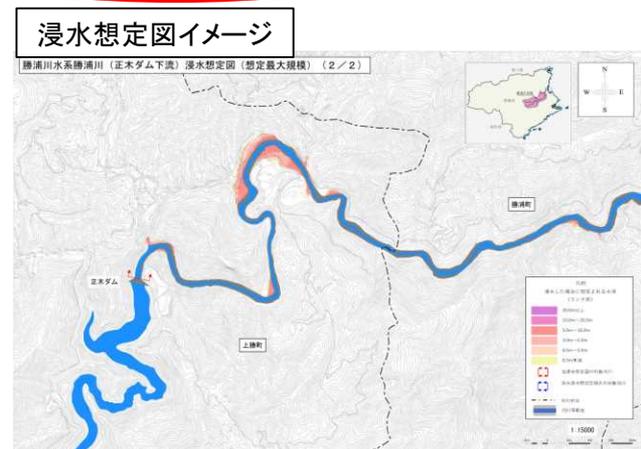


- 令和5年度、東部圏域では35河川について、浸水想定図の作成を進め、水害リスク情報空白域の解消に取り組む



「徳島県水防・砂防情報マップ」を加工して作成

水害リスク情報のない河川において浸水が発生



勝浦川(正木ダム下流) 浸水想定図 (想定最大規模)
令和2年3月公表